

科学で遊ぼう

おもしろ科学探険

ガイドブック

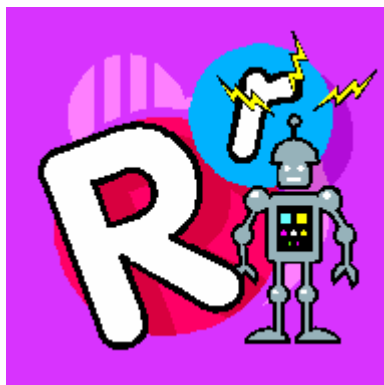


上郷おもしろ科学探険隊

2006.02rev.

どのようなことが書いてある (mokuji)

目的は?	1
背景は?	1
具体的な活動は(理想とする姿)	2
どのように組織化されて	3
実際にどのようにやっているか	
どのように組織化するのか	5
今後の事業展開(イメージ図)	7
参考資料	
わたしたちの活動報告(みどりが丘)	8
写真集	9



連絡先： おもしろ科学探険隊 代表 関口秀夫
電話&FAX：045-894-1532
E-mail：hsekiguchi@ttmy.ne.jp

【活動の目的】

みどりが丘おもしろ科学探険隊の会則には活動の目的を次のように明記しております。

「小中学生に実験や工作を通して、自然現象の面白さや不思議さを楽しみながら体験させ、自然科学の本当の面白さを頭だけでなく身体全体を使って理解してもらうこと」を目的とする。

また、スタッフもリハーサル、定例会を通じて子どもたちと同じ体験をすることにより、自然科学の再認識、子どもたちとの価値観の共有が図れます。

このような体験の場を区内にもっと広げることがを目的とします。



【活動の背景】

世の中子どもたちの理科離れが叫ばれてからすでに久しいと思います。「科学の面白さ、不思議さは継続して体験して分かる」これは7年弱の「おもしろ科学探険隊」の「楽しみながらやる」活動を通してわたしたちが実感しているところです。この活動をもっと区内に広げて多くの子供たちに経験してもらいたい。またスタッフとして参加する大人にも、同じような感動の体験がもてることで親と子が価値を共有する場としても有効であると信じています。



【具体的な活動(理想とする姿)】

寺子屋方式

手近な場所で、手近な人たちで!!

歩いて通える場所で、近所の子どもたち(20人以下)が集まって、数人のスタッフと一緒に実験・工作を楽しむこと。子どもたち全員が実際に手をだして体験する。この体験を通して面白さを感じる。スタッフは子ども4-5人のグループの面倒をみる。

教えるのではなく、一緒に楽しむ

驚き、スゴイ! 不思議だな? の体験をたくさんもってもらおう

手近な材料で!!

できるだけ身近な材料を使って実験を楽しむ。

情報・実験器材の共有

しかし、いかにも理科の実験をしているなということを実感することも大事です。時には、理化学実験の道具も使いたい。ハイテクの世界の中で、どうしても金額の張る機材も使いたい。

このためには、寺子屋どうしがネットワークで連携して金額のはる機材を共有することができればいいな! 情報も共有できればと考えています。



みどりが丘のおもしろ科学探険隊はどのように組織されて、 どのようになった？

若いお母さんたちの強い希望があつて組織ができあがつた
現在スタッフ12人中8人は子育て真っ最中のお母さんたち
スタッフによるリハーサルが最も盛り上がる時です

縦の広がり:

対象は小中学生としているが、

◎活動の範囲をもっと広げて学齢前の 幼児、大人(お母さんたち)を対象とした イベントの要望がある

◎親子で感動の共有ができる

横の広がり:

地域のイベントへグループとして積極的に協力・参加する

(上郷南小・わくわく広場、栄ヤングフェスティバル、地域の夏祭りなど)

実際にどのようにやっているのか

みどりが丘 おもしろ科学探険隊の例

まず、経費的なことですが

月に1回(第4土曜日)、1回500円で、3回単位のプログラムを作成し、すなわち3回で1500円の会費を参加する子どもたちに負担してもらっている。これは、実験の機材、消耗品、材料の購入および保険料にあてている。この内、若干のプラス分は積み立てて少し価格の高い実験器具の購入にあてる。みどりが丘の場合、会場となる自治会館の使用料は自治会から無償としてもらっている。

スタッフは完全に無償のボランティアで、交通費は会で負担する。



わたしたちは、この会の活動が“楽しみ優先”と考えていますので、子どもたちには手ぶらで来てもらうことを原則としてきました。

従って通常の文房具類なども会の備品として用意していますので、やり方によりますが、会を立ち上げる際には、このようなものも含めて基礎的な備品の準備が必要となります。



もう少し費用のことを追加します

冒頭に紹介しましたように、平成17年度からは3年間の予定で“科学で遊ぼう ～おもしろ科学探検～”の活動に対して栄区から助成金を出してもらえることになりました。

消耗品以外の項目に対して2/3の助成です。

従って、この間に組織を立ち上げることができれば、上で述べた基礎的な備品の準備や保険料が助成されます。



この活動を立ち上げるなら今がチャンスです!!

次に本番の実験・工作です

現在20名弱の子どもたち(原則小学3年生以上としていますが、保護者も参加される条件で小学1,2年生もいます)が参加しています。これを1名のリーダー(主として隊長)と4グループに分けた子どもたち(1グループ4-5名)に 少なくとも1名スタッフがついて活動を行っています。

休憩なしに2時間の会を、結構、皆んな集中して楽しんでもらっていると思っています。

スタッフは、原則的には、本番の前のリハーサルを通して、子どもたちと全く同じ実験・工作を経験してもらいます。実はこの時間がスタッフの最も盛り上がる時です。

スタッフには、現役のお母さんたちが多くいるので、会場の別な場所ではスタッフの小さな子どもたちが数人のスタッフと共に楽しく時間を過ごしています。この子どもたちは近い将来の隊員予備軍と期待しています。



どのように組織化するか

1. まず有志が集まって組織化の準備会をつくる
活動の拠点となる会場を見つける
2. 地域で活動を知ってもらうための無料の体験会を開く
屋台方式で何種類かの体験コーナーを設け、多くの人たち(大人も子どもも)に面白さを体験してもらう
3. 定期的な例会を開くことを前提として子どもたちを募集する。
人数は20人以内とする。
募集の前に、3回分(3ヶ月分)のプログラムを決定する。
4. 事前にスタッフのリハーサルをする。
5. 本番を迎える



拠点となる場所について

この活動をする拠点となる場所についてですが、基本的にはどこでもできます。

条件としては

- 1.実験をするテーブルがあること
- 2.部屋またはその近くに水場があること、
- 3.電気のコンセントがあること
- 4.できればお湯が沸かせるところ

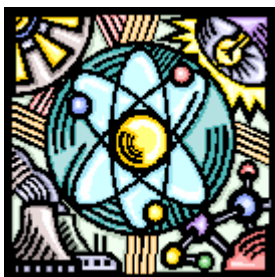
が満足されればよいのです。

実際に わたしたちの活動場所として使っているところは、保育園(緑区)、地区センタ(旭区)、自治会館(栄区)などとなっています。

最も重要なプログラムの作成について

プログラムはおおまかには、 1.企画 2.シナリオ作成 3.実験の試行、改良 4.実験器具、材料の購入 5.説明資料、スタッフのための手順書などの資料類作成 6.スタッフのリハーサル 7.最終シナリオ完成 8. 実際の子どもたちの実施状況により改良 の手順で作られて行きます。

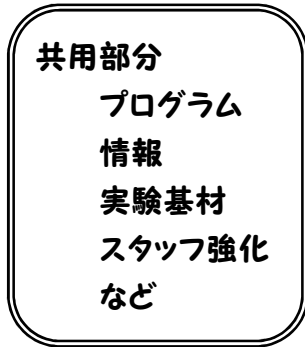
従って、プログラムの作製には多大なエネルギーが必要ですが、とりあえず、わたしたちは、7年弱の活動から80件程度のプログラムを持っていますので、当面は新しいプログラムなしで活動を開始することができますと思います。ご安心ください。



今後(1年後)の事業展開(イメージ図)

おもしろ科学探険隊

(総括事務局)



(連絡会)

上郷おもしろ科学探険隊

(栄区東上郷町)

オレンジおもしろ科学探険隊

(栄区笠間)

上郷いたち川おもしろ科学探険隊

(栄区上郷町)

緑園なえばおもしろ科学探険隊

(泉区緑園都市)

**おもしろ科学探険隊

〇〇おもしろ科学探険隊